


1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

（注）5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、輸送機械が供給制約の改善に伴い持ち直している一方、生産用機械が海外の設備投資需要の落ち着きから引き続き弱含んでいるなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	5年度は増加見込み	5年度は増加見込み	
企業収益	5年度は減益見込み	5年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超幅が縮小	「上昇」超に転じている	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

スーパー販売は飲食料品が堅調となっており、前年を上回っている。百貨店販売は身の回り品が好調となっているものの、飲食料品等が低調となっていることから、前年並みとなっている。コンビニエンスストア販売は飲料等が好調となっており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は新規出店効果のほか、化粧品や飲食料品が好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売は園芸用品やDIY関連が伸び悩んでいることから、前年を下回っている。家電大型専門店販売はエアコンや冷蔵庫が好調となっていることから、前年を上回っている。乗用車販売は半導体不足等の緩和から、前年を上回っている。旅行は国内旅行が緩やかに回復しつつある。このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 猛暑による調理の簡素化やお盆の帰省に伴うオードブル等のニーズを捉え、総菜は引き続き堅調に推移したほか、夏物衣料が一時品薄になるほど好調であった。(スーパー)
- 今期の百貨店の中元商戦は、慣習が薄れてきたことや早期特典の見直しなどの影響もあって低調だった。(業界団体)
- 猛暑の影響により、アイスクリームやペットボトル飲料が好調となった。(コンビニエンスストア)
- 外出機会の増加により、口紅やファンデーションのほか紫外線対策効果のある化粧品が好調。(ドラッグストア)
- 猛暑の影響で、エアコン等の季節家電が好調。冷蔵庫では、暑さによる故障から買替需要がみられた。(家電量販店)
- 半導体不足による納期の長期化は徐々に緩和されており、多くの車種で受注残の納車が進んでいる。(自動車販売)
- 全国旅行支援の終了や物価高の進展を受けて旅行需要の低下を懸念していたが、コロナ禍で我慢していた反動から国内旅行は好調に推移している。(旅行代理店)
- 夏休みやお盆をはじめ家族連れの宿泊者が増加しており、人流の回復が感じられる。一方、宿泊者が戻ってきている現状では、人手不足感がある。(宿泊)
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い客数が伸びており、会社の送迎会など団体客も増加している。(飲食)
- ファミリー層のゲームセンター来店が増えている。「遊んだ」という経験だけでなく、実際に「モノ」が残る遊具が人気。(専門店)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

電子部品・デバイスは自動車向けが堅調となっているものの、スマートフォンやパソコン向けで海外経済の減速等を背景に弱含んでいる。輸送機械は供給制約が改善しており、持ち直している。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける設備投資需要の落ち着きから、弱含んでいる。このように、生産活動は、一進一退の状況にある。

- 自動車向けは、国内における完成車メーカーの生産調整の解消や、海外向けの電気自動車(EV)関連製品の新規受注もあって、堅調に推移している。(電子部品・デバイス)
- スマートフォンやパソコン向けは、秋頃からの持ち直しを期待していたが、需要減少の継続を背景に取引先の在庫調整が長引いている。データセンター向けも、目立った動きはみられない。(電子部品・デバイス)
- 半導体不足は大きく改善し、ほぼ通常の状態に戻っていることから、安定的に生産できている。(輸送機械)
- スマートフォンやパソコンに使用される半導体メモリ等の在庫調整が続いており、それに伴い製造装置への設備投資も減らすといった流れが継続。年内は厳しい状況が続くと見込まれる。(生産用機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は低下しているものの、人手不足を背景に企業の採用意欲は依然として高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 更新時期のずれや物価上昇に伴う受注調整などを背景とした新規求人の減少はみられるものの、人手不足などを背景とした企業の求人意欲は高い状況がみられる。(公的機関)
- IT需要の高まりを受けて、ソフトウェア開発等に係るシステムエンジニアの求人が増加している。(公的機関)
- 人手不足により受注を断っている工事もあり、収益機会を逸している。常時募集をしているほか、待遇面を改善する等の対応を行っているものの、応募がない。(建設)

- 設備投資 「5年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期
 - 製造業では、情報通信機械等で増加見込みとなっているものの、輸送用機械、食料品等で減少見込みとなっていることから、全体では減少見込みとなっている。
 - 非製造業では、電気・ガス・水道等で減少見込みとなっているものの、金融・保険、農林水産等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 前年度実施した新型車生産に係る投資の反動により減少する見込みとなっている。(輸送用機械)
 - 新紙幣に対応するためのATM改修により増加する見込みとなっている。(金融・保険)
- 企業収益 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期
 - 製造業では、輸送用機械等で増益見込みとなっているものの、非鉄金属、情報通信機械等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業では、専門・技術サービス等で減益見込みとなっているものの、小売等で増益見込み、運輸・郵便で黒字転化見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
 - 企業の景況感 「『上昇』超に転じている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期
 - 現状(5年7~9月期)は「上昇」超に転じている。先行きは、5年10~12月期に「上昇」超幅が拡大し、6年1~3月期に「下降」超に転じる見通しとなっている。
 - 住宅建設 「前年を上回っている」
 - 新設住宅着工戸数をみると、持家、分譲が前年を下回っているものの、貸家が前年を上回っていることから、前年を上回っている。
 - 公共事業 「前年度を下回っている」
 - 前払金保証請負金額は、国、県等で前年度を下回っており、全体では前年度を下回っている。
 - 消費者物価 「前年を上回っている」
 - 金融 「貸出金残高は、前年を上回っている」
 - 企業倒産 「件数、負債総額とも前年を上回っている」

3. 各県の総括判断

	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつあり、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	緩やかに持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
岩手県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田県	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は横ばいの状況にある。
山形県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は持ち直しており、生産活動は横ばいの状況にある。雇用情勢は持ち直しのテンポが緩やかになっている。
福島県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。